

尾平町西組「亥の子祭り」復活

集合写真

11月6日(日)にコロナ禍のため中止になっておりました「亥の子祭り」が地域の小学生および保護者、地域の方の協力のもと、三年ぶりに復活しました。

子供たちは当日の午前には亥の子槌を農家の方の手ほどきのもと、保護者と一緒に作成し、午後は神明神社に集まり、宮司によるお祓いを受けて、境内で歌に合わせて亥の子槌で地面をたたき、亥の子祭りを奉納しました。

その後二手に分かれて25軒ほど家を練り歩きました。

コロナ禍での開催でいろんな面で制限はありましたが、復活できたことを大変嬉しく思います。

新聞にも取り上げていただき、次につながる良い再スタート(祭スタート)になったと思います。

地域の伝統行事の伝承を今後とも多くの方からの協力を得ることができればと願っております。

尾平町西組組長 浅川勝広



「亥の子祭り」の様子



新聞掲載記事

四日市市尾平町の神明神社で六日、西日本を中心にさかんな秋の伝統行事「亥の子」が行われた。地区の小学生十三人が参加し、地域の民家をまわって豊作を感謝したり、子孫繁栄や無病息災を祈ったりした。

コロナ禍の影響で一昨年、昨年と中止が続き三年ぶりの実施。この日、児童らは同神社の境内で、今年収穫した稲わらに縄を巻き付けて長さ八十センチの束を作り、神明神社で樋口和美宮司（モ）がおほらいをした。

その後、二手に分かれて計二十五軒の家を訪問。軒先で児童らは「亥の子の餅はついてもついても折れません」と歌いながら、わらを地面に勢いよくたたきつけ、家の住民らが目を細めて見守った。神前小学校五年の秋陽菜乃さん（こ）は「地域の人が幸せに暮らせるように願ってわらをたたいた」と話した。

(篠崎美香)



軒先で歌いながらわらを地面にたたきつける児童ら。四日市市尾平町で